



ひらく

学校を開き、生徒の未来を拓く

◇修学旅行を終えて…

瑞穂市では非核・平和都市宣言の10年目の節目として、令和2年度から被爆アオギリ二世の植樹式を穂積中(R2)、穂積北中(R3)、巢南中(R4)の順番で行いました。今の3年生が1年生の時に背丈が40cm程のアオギリが体育館南側に植樹されました。3年が経ち、中学生の身長をはるかに超え、立派に成長しています。また、夏季休業中に巢南中では、原爆の悲惨さや平和の尊さを学ぶために、令和3年度から平和登校日を設けています。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の広がりが見られたため、広島から被爆体験伝承者をお迎えすることはできませんでした。令和4年度からは毎年来ていただき、原爆によって被爆した方々の悲しみや苦しみについて、思いを馳せることができる講話の内容となっており、平和についてじっくりと考える機会となっています。



1日目: 平和記念公園(広島県)

こうした校内での様々な取り組みや学びを土台とし、生徒と先生たちを合わせた160名余りの大部隊での広島・岡山修学旅行(9月25~27日)を無事に終えることができました。修学旅行では、いろいろな所を見たり食べたりすることはもちろん行いますが、「観光」することが目的ではありません。先程も紹介した平和登校日での学びに加え、「総合的な学習の時間」では2年生は「平和」の内容、3年生は「人権」という内容を通して、各生徒は本やインターネットを活用して調べたり・講話や映像から知見を深めたり・まとめを行ったりするなど、探究的な学びになるように取り組んできました。そして、学びの集大成として実際に現地に赴きフィールドワークを行い、今までに学んだことを確かめたり、新たな発見をしたりすることが修学旅行の目的です。原爆が落とされた広島は被爆後75年間、草木も生えないと言われ、復興に際しては様々な偏見や差別を受けながらも、国際都市にまで発展を成し遂げた広島県の方々の底力を、五感を使って学ぶことができました。また、ハンセン病問題では国の隔離政策により、ハンセン病患者だけでなく、その家族も偏見や差別の対象となりました。岡山県の国立療養所長島愛生園



3日目: 国立療養所 長島愛生園(岡山県)

に訪問し、偏見や差別を受けた人々の苦しみを生徒は「心のひだ」の部分に直接触れた体験をしました。感受性がとても豊かな巢中生は、きっと、偏見や差別等を許さないという気持ちの醸成を図れたと思います。今後、修学旅行でしか得られない体験を通して、自分の進路選択(高校や将来の職業)や、大人に向かって自分の生き方を確立していく上で、大切な学びになったと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様には事前の準備から、早朝のお見送りやお迎えなど、ご協力やご支援をいただき本当にありがとうございました。

～お知らせ～ 9月11日(水)、午後10時40分ごろ

に、複数台の消防車等が駆けつける事案が発生しました。生徒には12日(木)朝の会の時、落雷による火災警報器の誤作動が原因であったということ、全校放送でお伝えしました。また、消防署や消防団、警察などが連携し、深夜にも関わらず労を惜しまず市民の方々が安心して暮らせるように支えてくださる存在の大きさにも、ふれさせていただきました。ご心配をおかけしました。